

## 6 就職問題並びにキャリア教育を巡る課題と方策

～探究活動との結びつきを重視した生徒の主体的な職業観の育成～

東京都立日野台高等学校長 森田 正男

### I はじめに

高等学校においては、新学習指導要領の年次進行にともない「個別最適な学び」「協働的な学び」を進めながら、新たな評価規準に伴う指導経過との一体化を目指した教育活動が展開されている。

キャリア教育については、キャリア教育及び職業教育に関して配慮すべき事項（第1章総則第2款3(7)）では、高等学校は、普通教育及び専門教育を施すことを目的としており、将来社会に出て職に就くのに必要な職業教育も行っている。特に職業教育に関連した規定としては、各学科における就業体験活動の機会の確保、普通科における職業に関する各教科・科目（職業科目）の履修、職業学科における配慮事項、更に職業科目についての配慮事項を示している。

以下の数字は、文科省による令和5年3月、高校を卒業した生徒の就職状況調査の結果である。

#### 【就職希望者数・就職内定者数等】

卒業予定者	972,316人	(前年同月	1,001,111人)
就職希望者	138,201人	(前年同月	148,761人)
うち就職内定者	105,179人	(前年同月	111,788人)
うち未内定者	33,022人	(前年同月	36,973人)

#### 【就職内定率（就職希望者に対する就職内定者の割合）】

76.1%（前年同月比 1.0ポイント増）

##### ○男女別

男子 77.0%（前年同月比0.7ポイント増）

女子 74.6%（前年同月比1.4ポイント増）

##### ○学科別（就職内定率が高い順）

「工業」87.8%、「看護」83.5%、「商業」81.3%、「水産」79.0%、

「福祉」78.6%、「家庭」78.6%、「農業」77.0%、「情報」75.4%、

「総合学科」73.7%、「普通」63.2%

※「その他」の学科は除く。

※「看護」に関する学科は看護。

今年度は、昨年度までのアンケートを参考に、新学習指導要領開始2年目を迎え、就職状況とキャリア教育と探究活動をどのように結び付けているのかという視点で調査を行えばとの考えで、アンケートを実施した。各都道府県で回答校数を限定することなく回収させていただき。結果、全国約1960校以上からの回答を得ることができた。各都道府県の協力を深く感謝いたします。

今回、アンケートの回収結果を基に、全国の状況がどのようになっているかということを中心に報告させていただくこととした。分析ということまで、届いていないが、全国の状況が、どのようになっているのか把握できればと考えている。

さらに、先進的な探究活動に早くから取り組んできた宮城県仙台二華中学校・高等学校、京都市立堀川高等学校の視察訪問について加えて報告させていただくこととした。

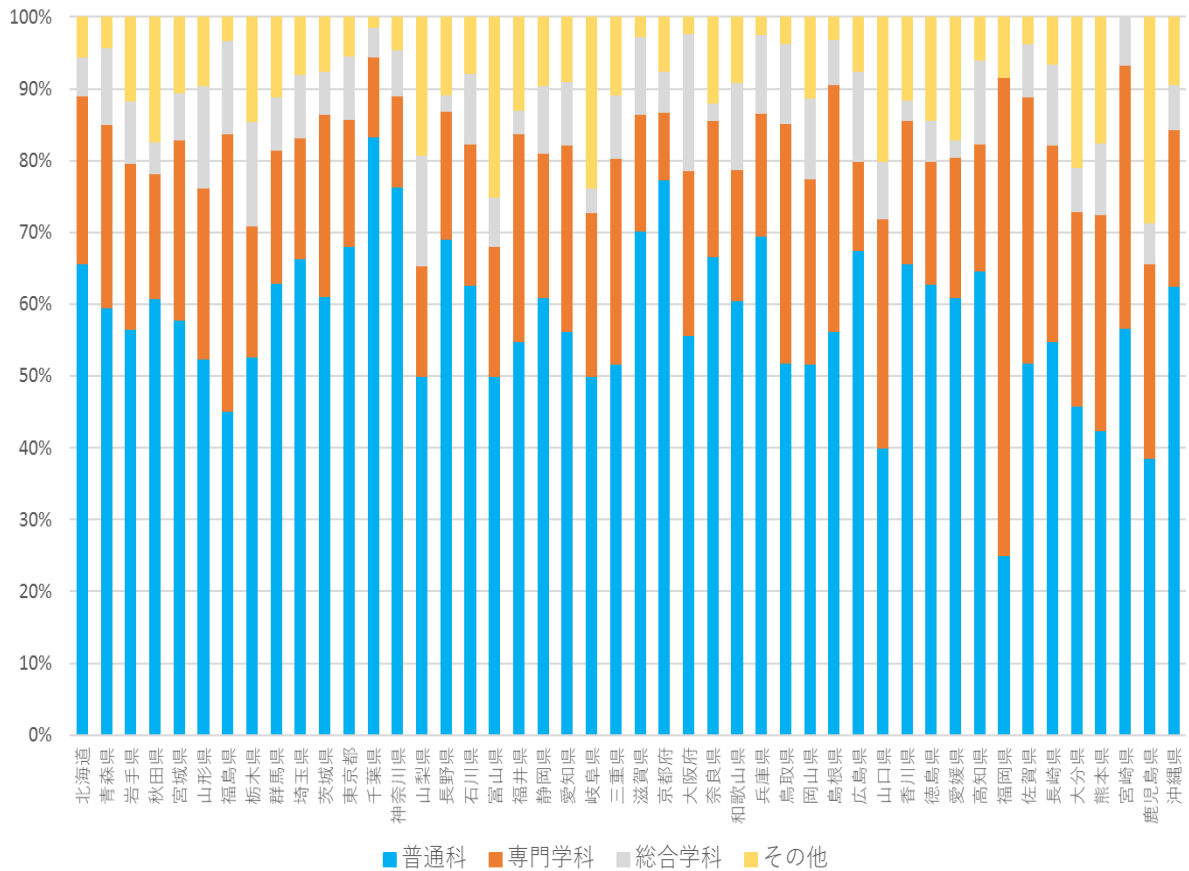
## II アンケート調査集計結果報告

### 1 調査における都道府県別回答校数

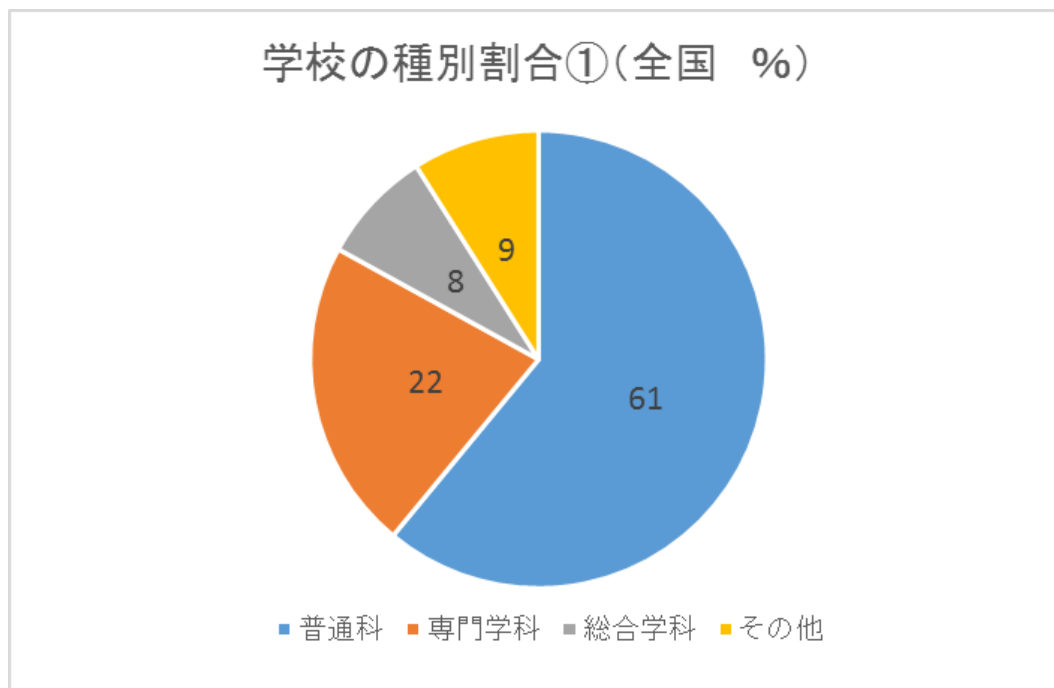
	北海道	青森県	岩手県	秋田県	宮城県	山形県	福島県	栃木県	群馬県	埼玉県	茨城県	東京都	千葉県	神奈川県	山梨県	長野県	石川県	富山県	福井県	静岡県	愛知県	岐阜県	三重県
総回答校数	201	47	69	46	76	42	31	55	54	101	67	113	144	110	26	84	51	44	31	95	135	114	56
公立	190	38	61	43	65	30	31	55	46	101	63	113	109	110	26	63	44	39	24	95	135	97	56
私立	11	8	8	3	11	12	0	0	8	0	4	0	35	0	0	21	5	5	7	0	0	17	0
国立	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0

	滋賀県	京都府	大阪府	奈良県	和歌山県	兵庫県	鳥取県	岡山県	島根県	広島県	山口県	香川県	徳島県	愛媛県	高知県	福岡県	佐賀県	長崎県	大分県	熊本県	宮崎県	鹿児島県	沖縄県
総回答校数	37	53	131	42	33	128	27	89	32	80	50	35	35	41	34	12	27	62	48	40	30	70	32
公立	37	46	130	29	29	128	20	71	32	80	40	28	35	41	29	12	27	56	48	40	30	59	32
私立	0	7	1	12	4	0	7	18	0	0	10	7	0	0	5	0	0	6	0	0	0	11	0
国立	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

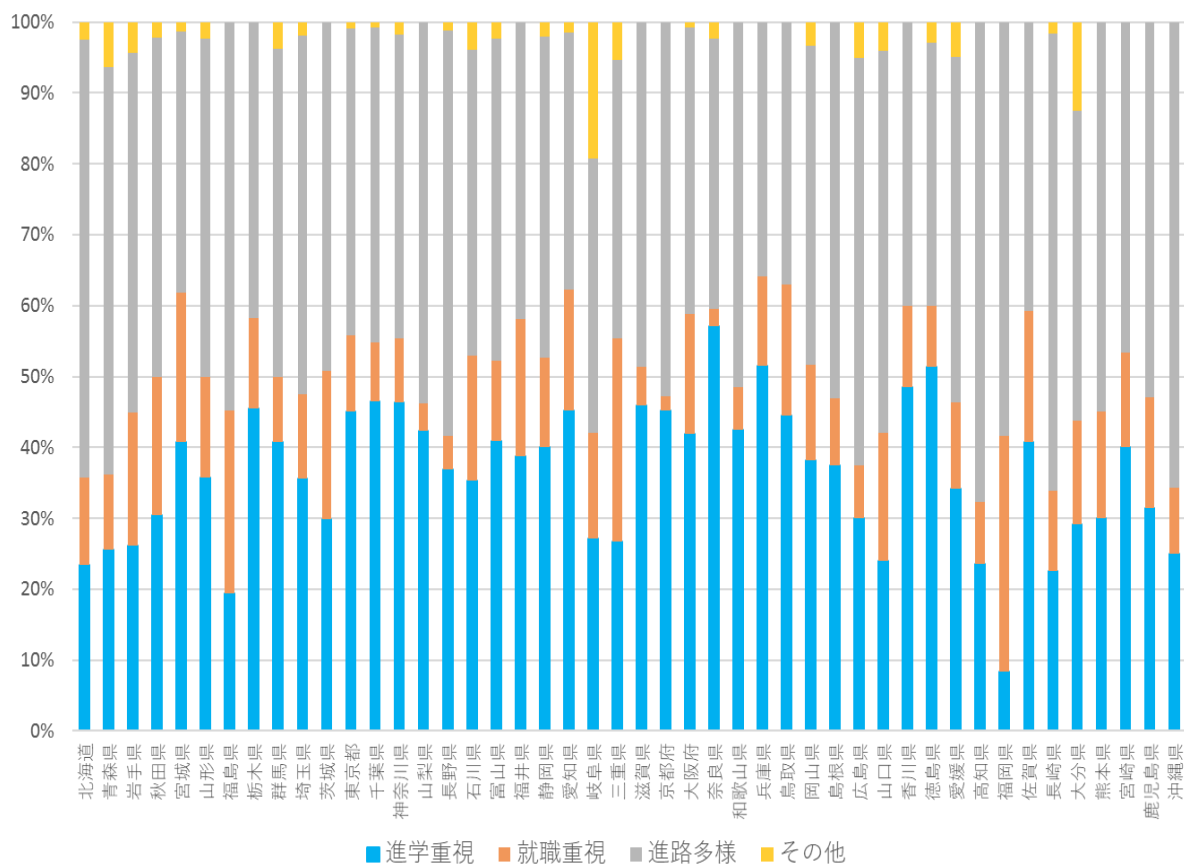
### 2 学校種別①（普通科・専門学科・総合学科・その他） （都道府県別）



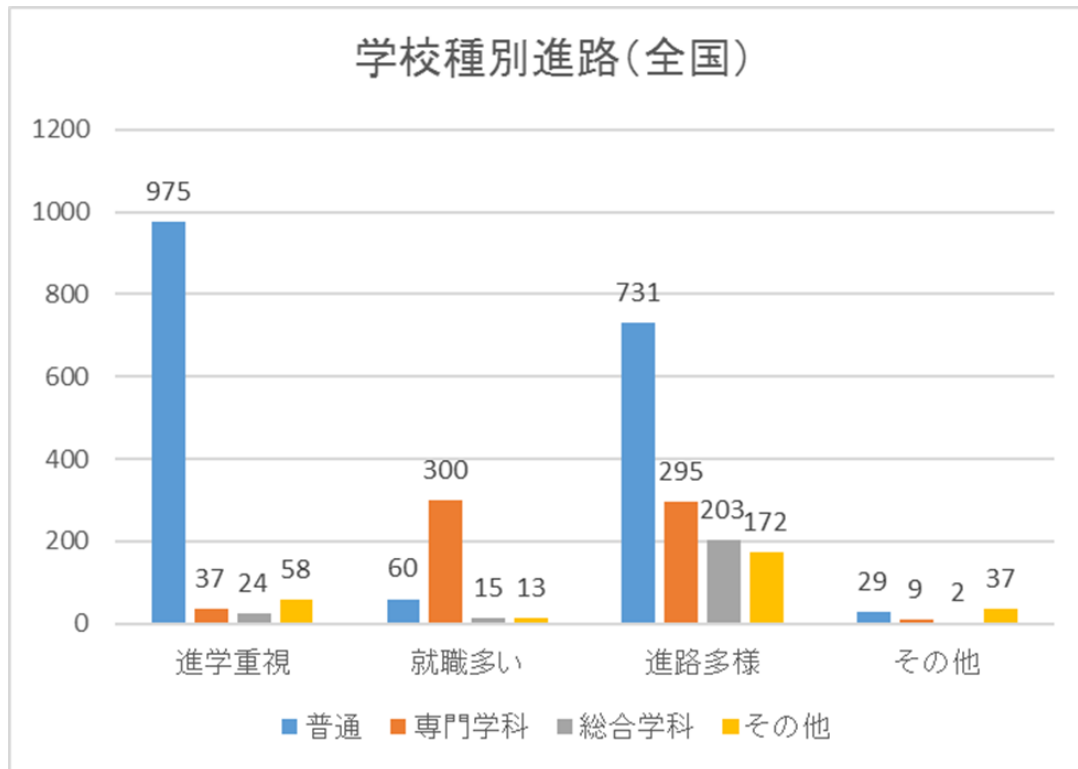
(全体)



学校種別② (進学重視・就職重視・進路多様・その他)  
(都道府県別)

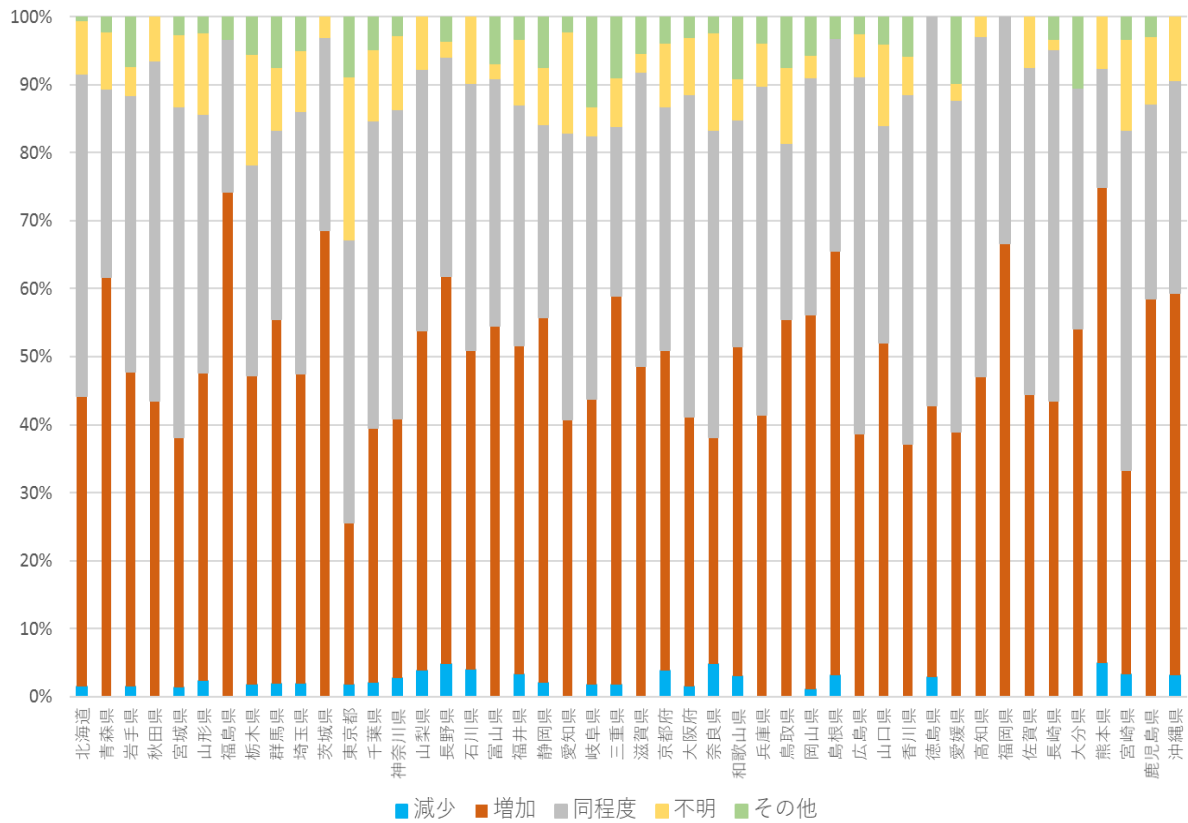


(全体)

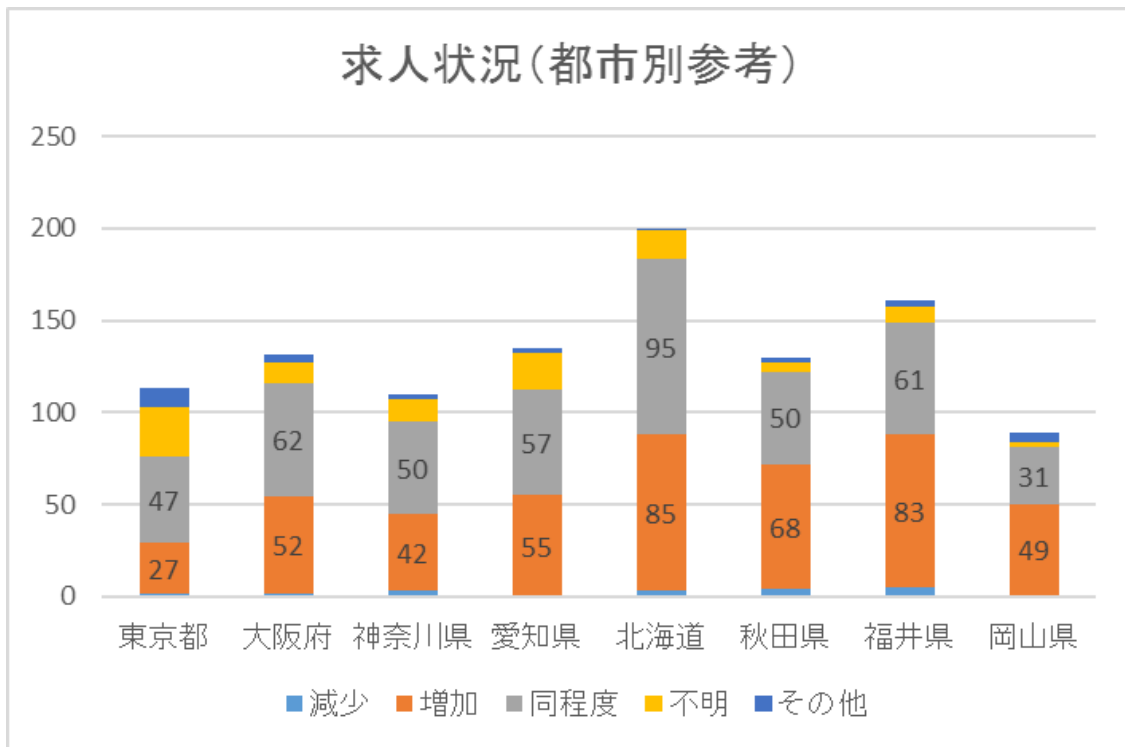


### 3 求人数推移 (前年比)

(都道府県別)

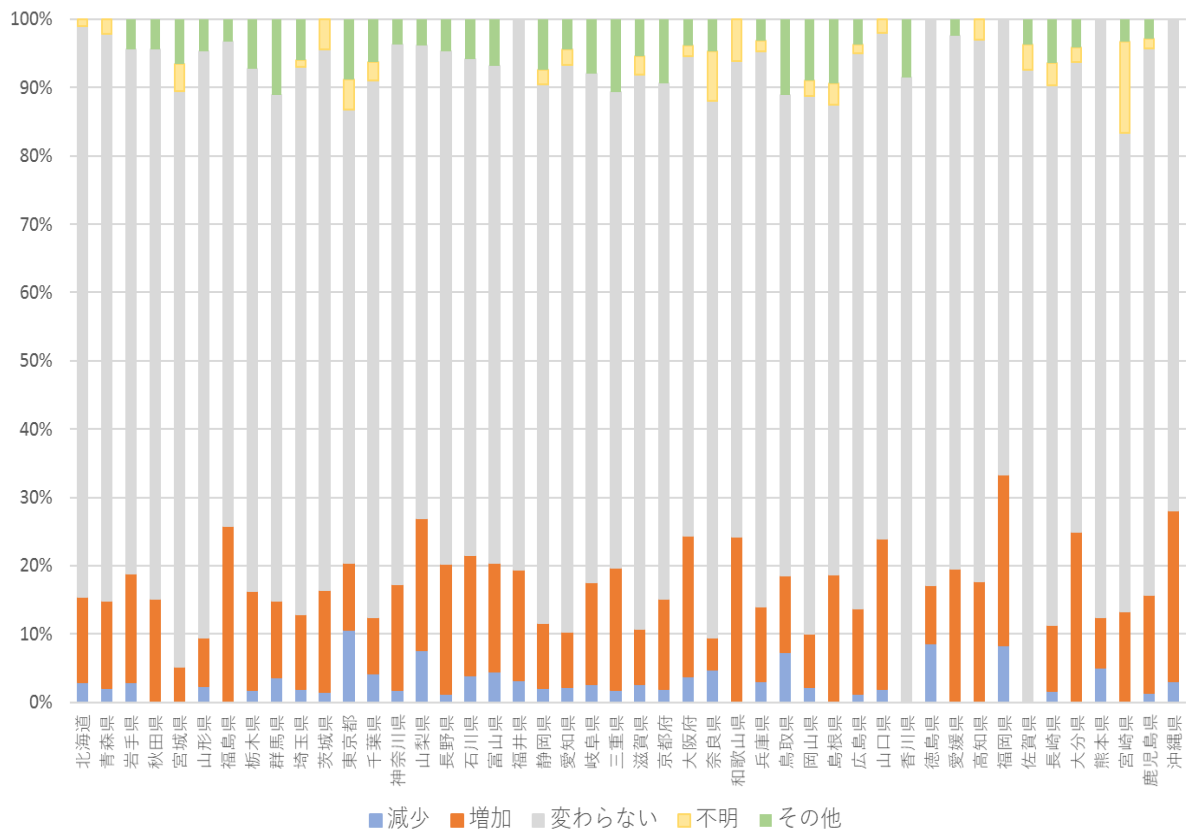


(都市別参考)

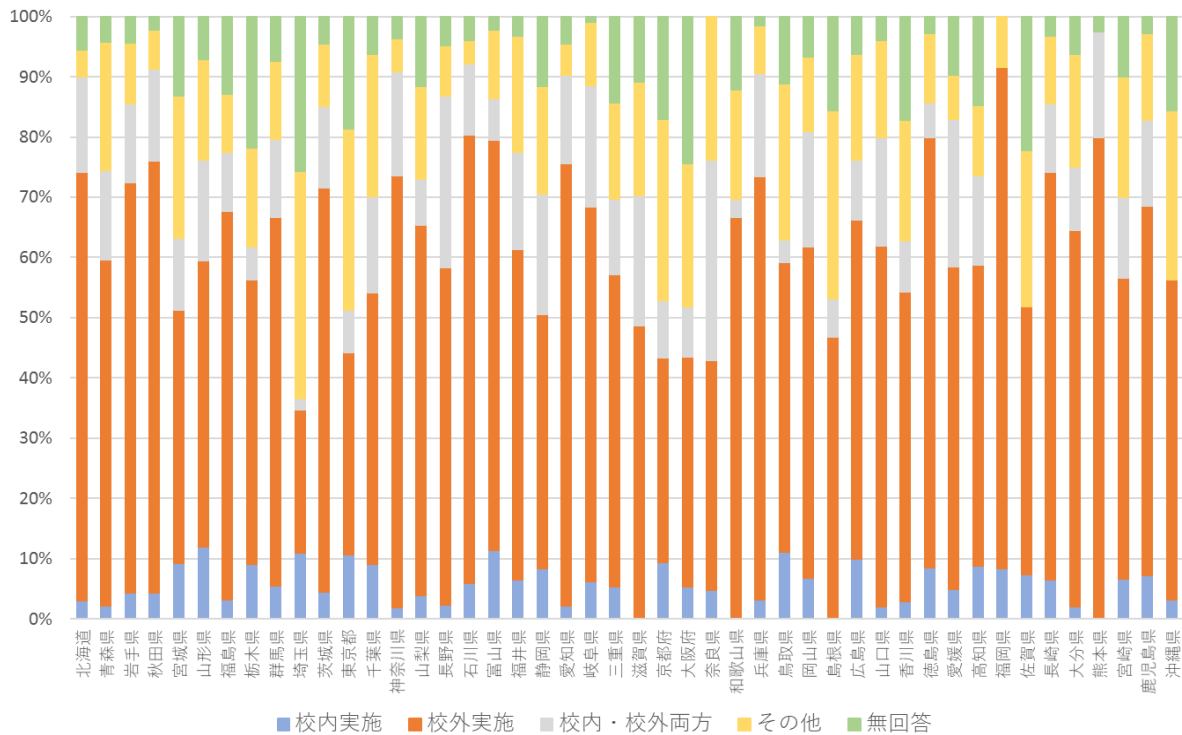


#### 4 就職活動・指導調査 (ア) 今年度の就職指導にかける時間

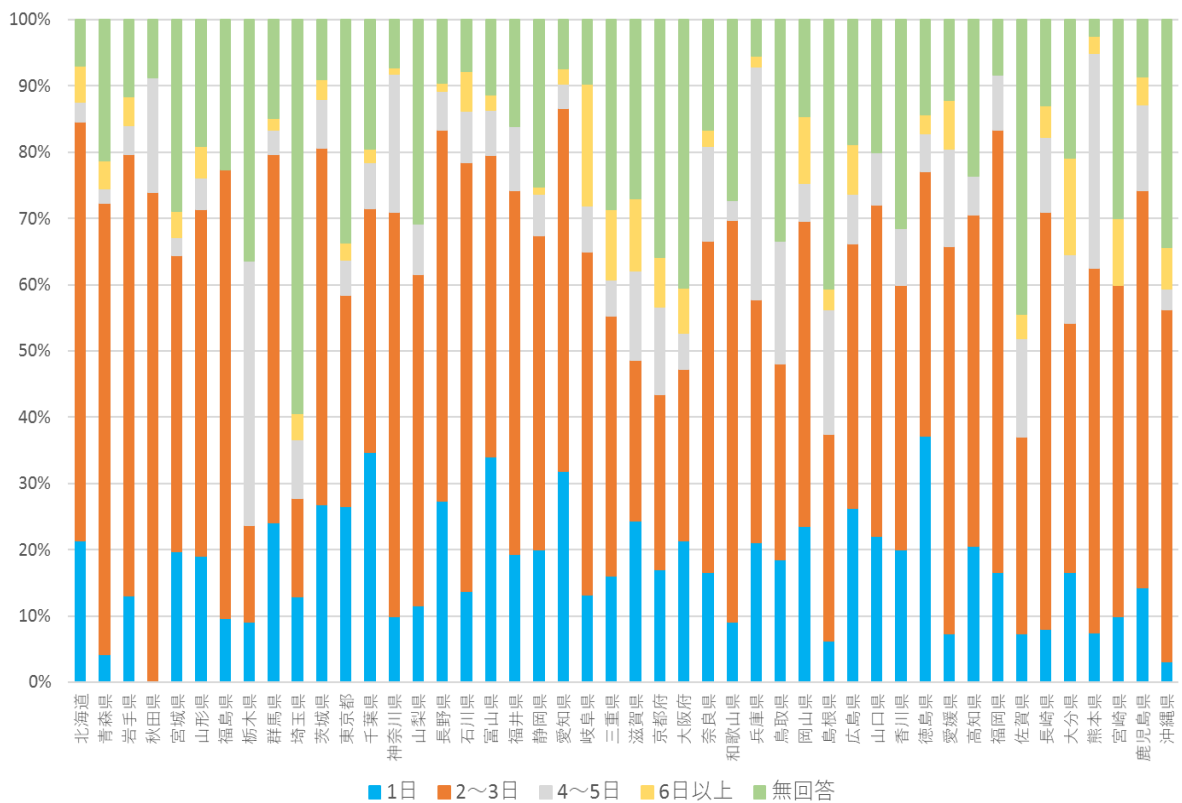
(都道府県別)



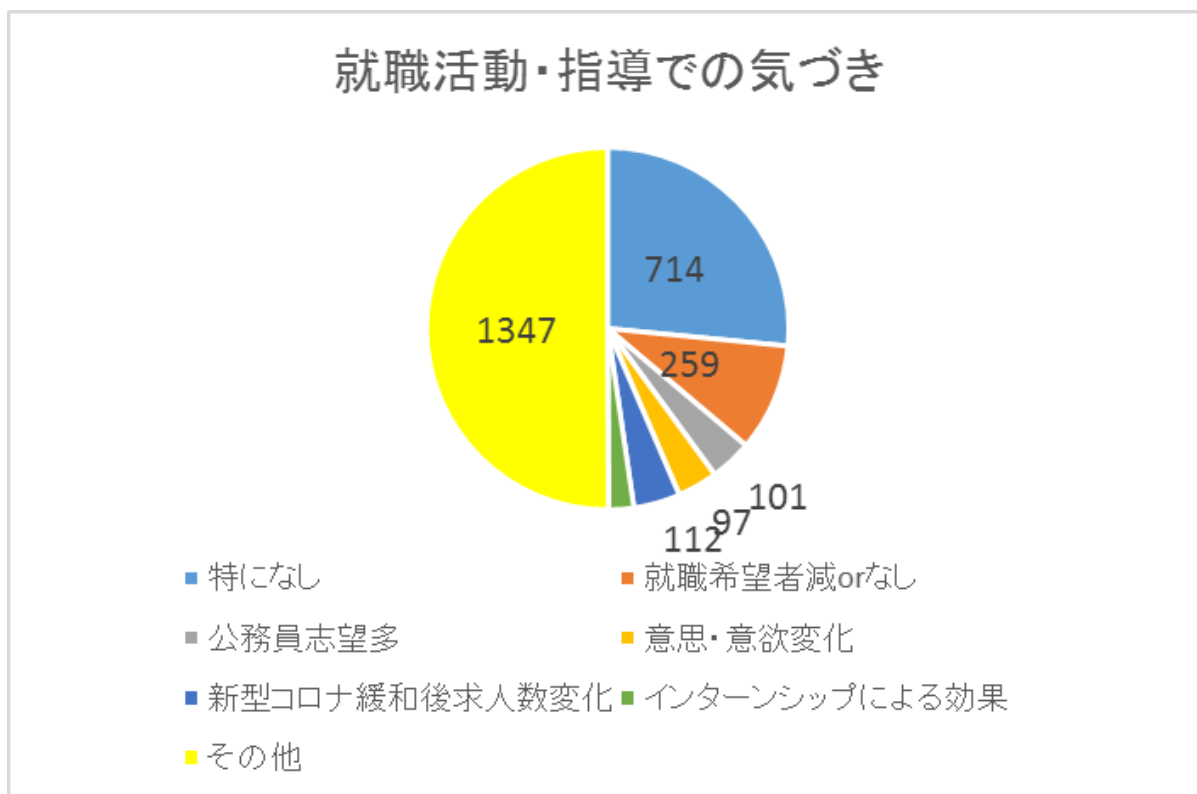
## 5 就職活動・指導調査 (イ) インターンシップ実施状況 (都道府県別)



## 6 就職活動・指導調査 (ウ) インターンシップ実施形態 (都道府県別)



7 就職活動・指導調査 (エ) 就職活動・指導で気付いたこと (全体)



年々指導に手がかかる生徒が増えてきているように思う。

求人票を送付していただける企業中に生徒の希望や適性に合うものが少ない。

就職希望者が減り、進学希望者が増加。

求人状況が非常に良いため、生徒にとって選択肢が増えている。今まで以上にミスマッチに気をつけて指導している。

求人票は、いつまでもデジタル化されない。

特定の教員に指導が任されている。

本年度は就職希望者がいないため、指導者の業務の継続に課題を残す。

人手不足による求人数の増加、求められる資質能力の変化。

面接力の弱さ。

工場勤務の求人が増加したが、保護者、生徒ともに給与・休曜日数等を重視する傾向にある。

本年度は公務員志望と縁故就職のみで他は進学でほぼ就職指導は実施できなかった。

年々就職希望者が減少傾向にあり、求人数が増加する中で、企業の求める人材育成が課題。

就職者少数のため、特になし。

本校では生徒が作成する各種書類や面接指導に多くの時間をとっている。

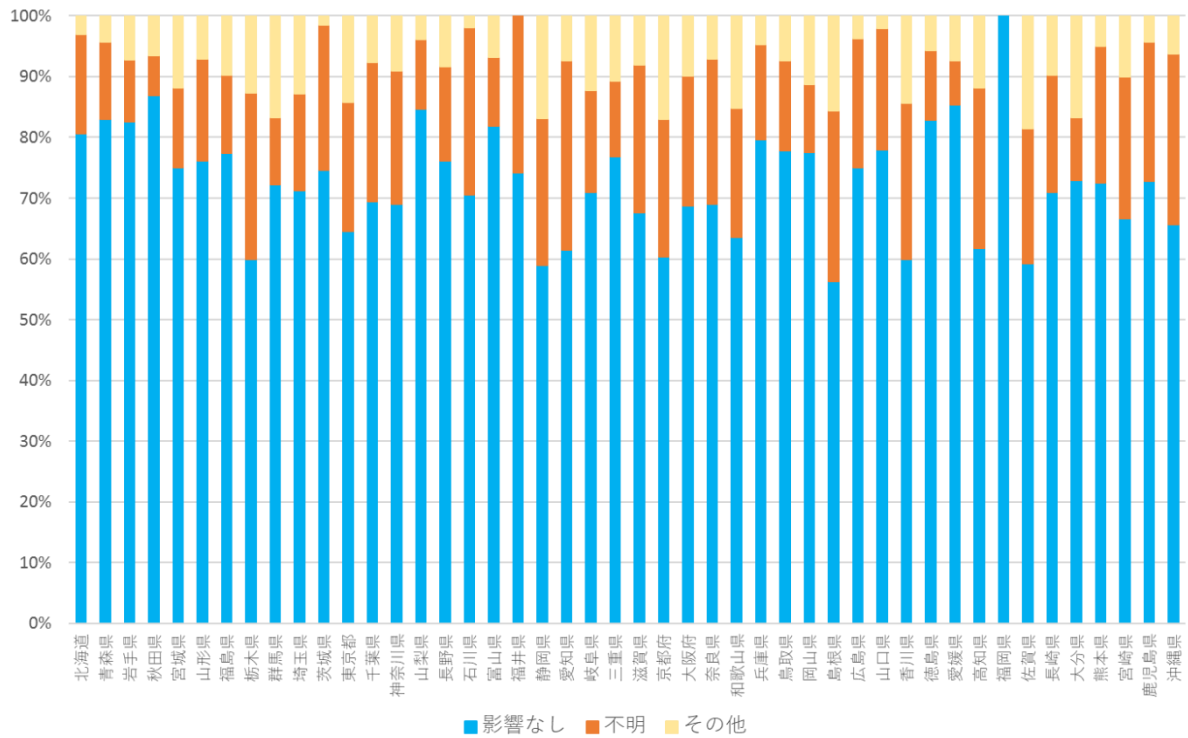
就職希望であるが、その覚悟、意欲が不足している生徒が増加した。

求人数が増加傾向にある中で、地域の会社(企業)について、十分に理解させた上で就職試験を受験させるために、早期の進路ガイダンスの改善と充実が必要であると感じる。

政府が転職促進を念頭に置いた政策を打ち出している中で、長期雇用を前提とした進路指導は現実と乖離してきていると感じる。そのため、校内で優秀である以前にキャリアを積み個人能力を高める指導が重要と考える。

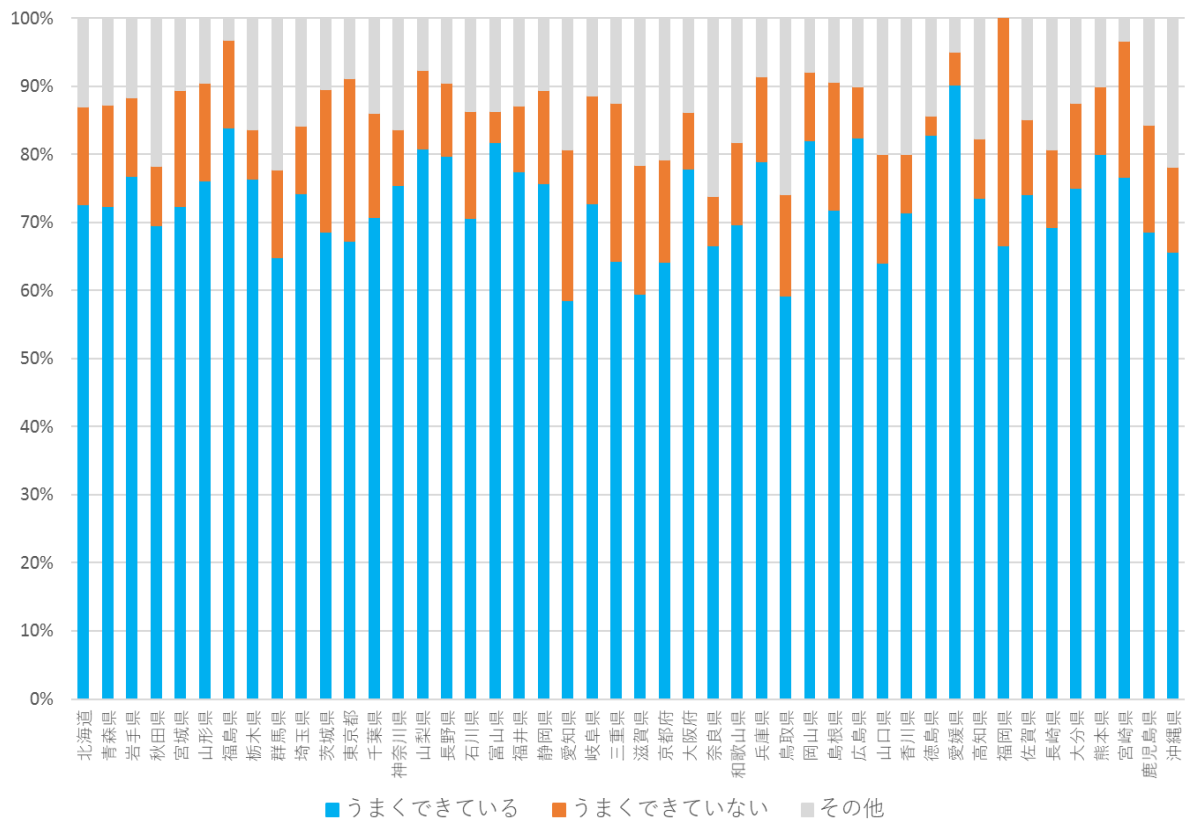
## 8 応募の状況・実施上の問題

(都道府県別)



## 9 キャリア教育取組調査 探究 (ア) 探究への取組状況

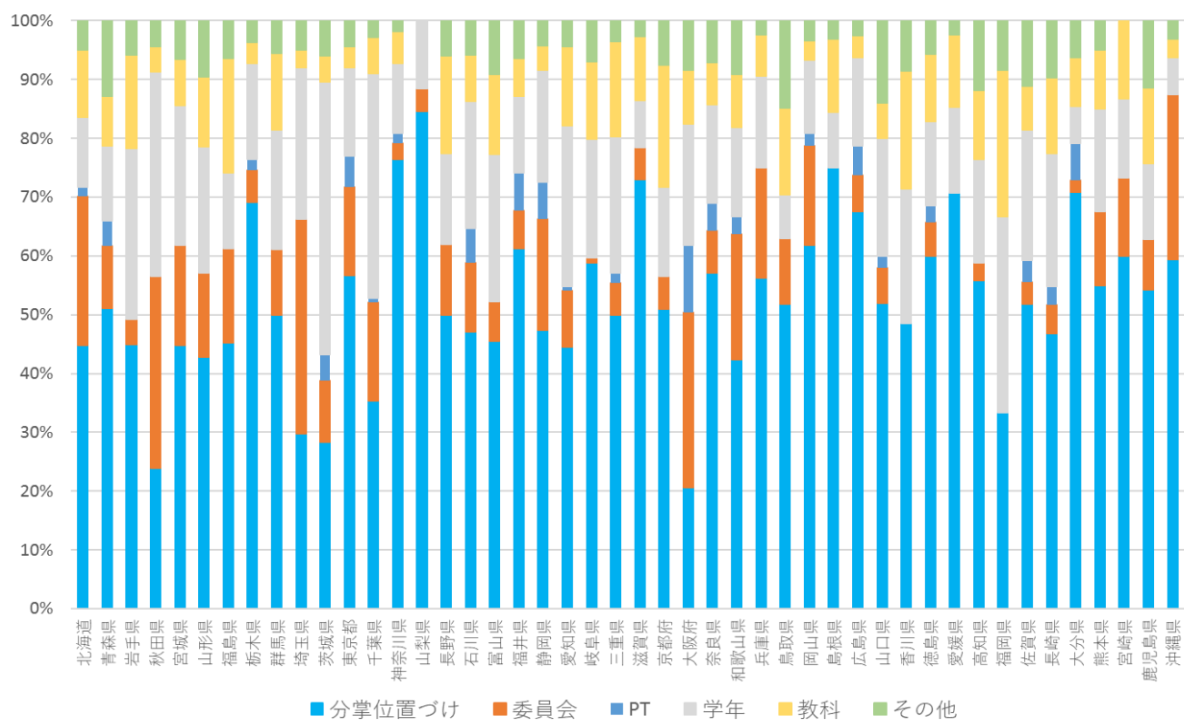
(都道府県別)





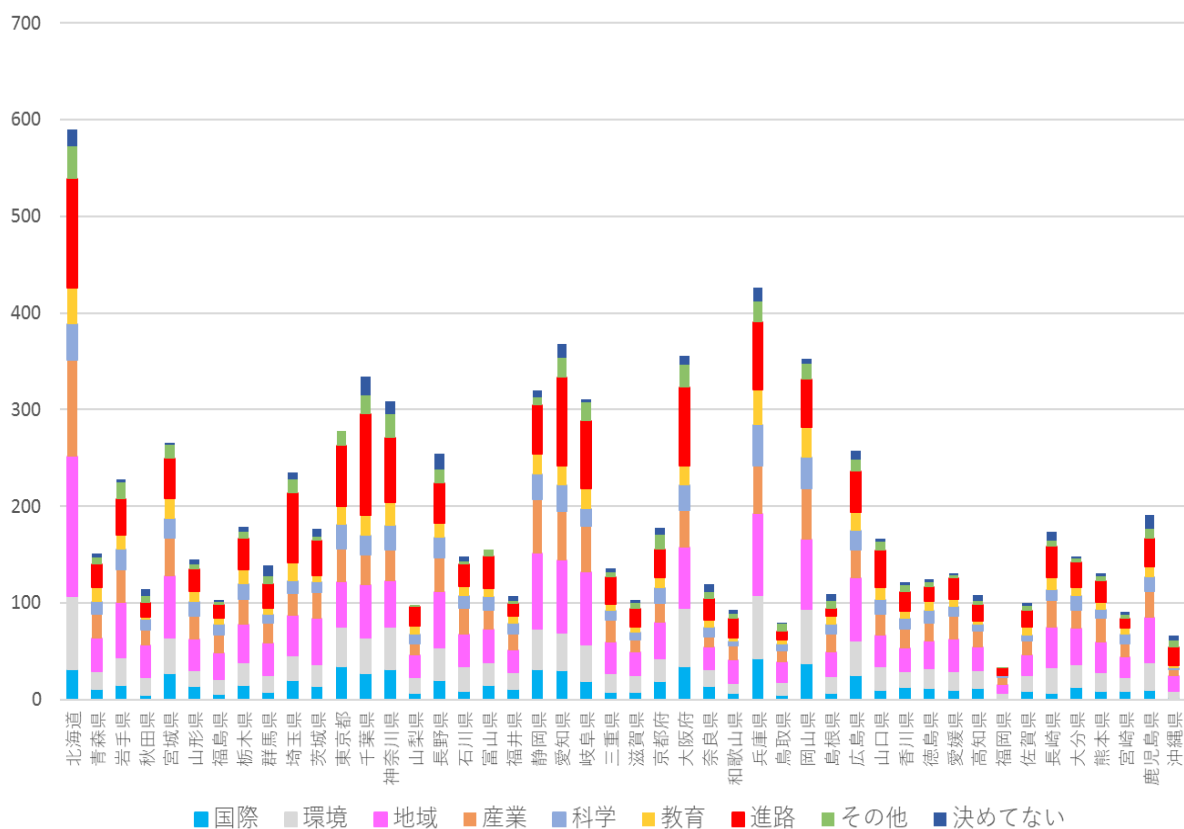
### 10 キャリア教育取組調査 探究 (イ) 探究の実施状況 (校内組織体制)

(都道府県別)



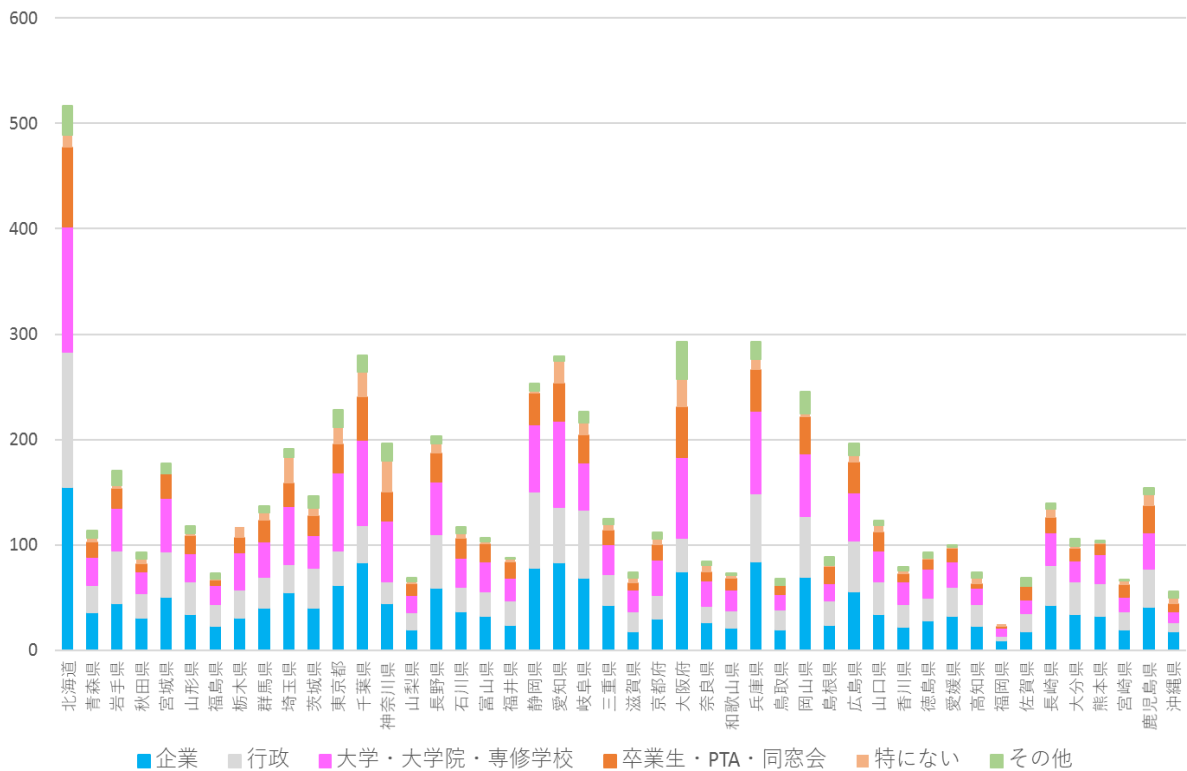
### 11 キャリア教育取組調査 探究 (ウ) 探究テーマ (回答数)

(都道府県別)



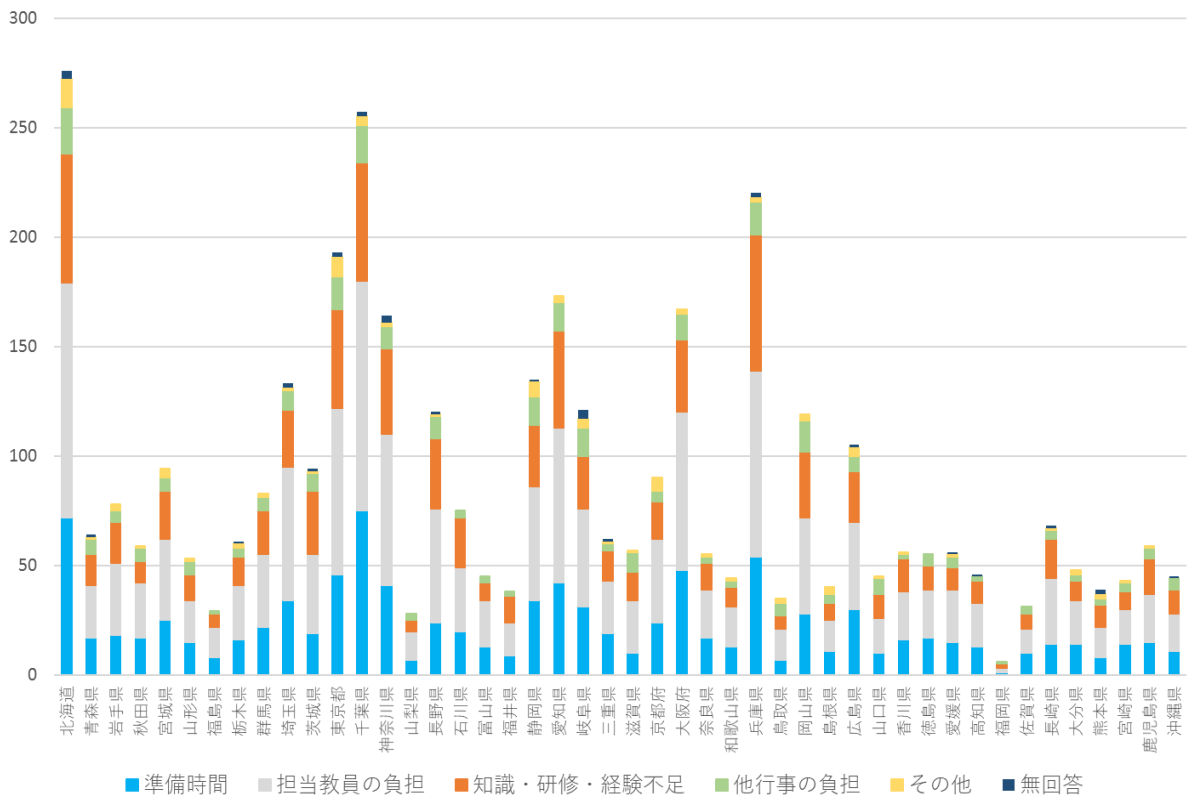
## 1 2 キャリア教育取組調査 探究 (エ) 探究連携先 (回答数)

(都道府県別)

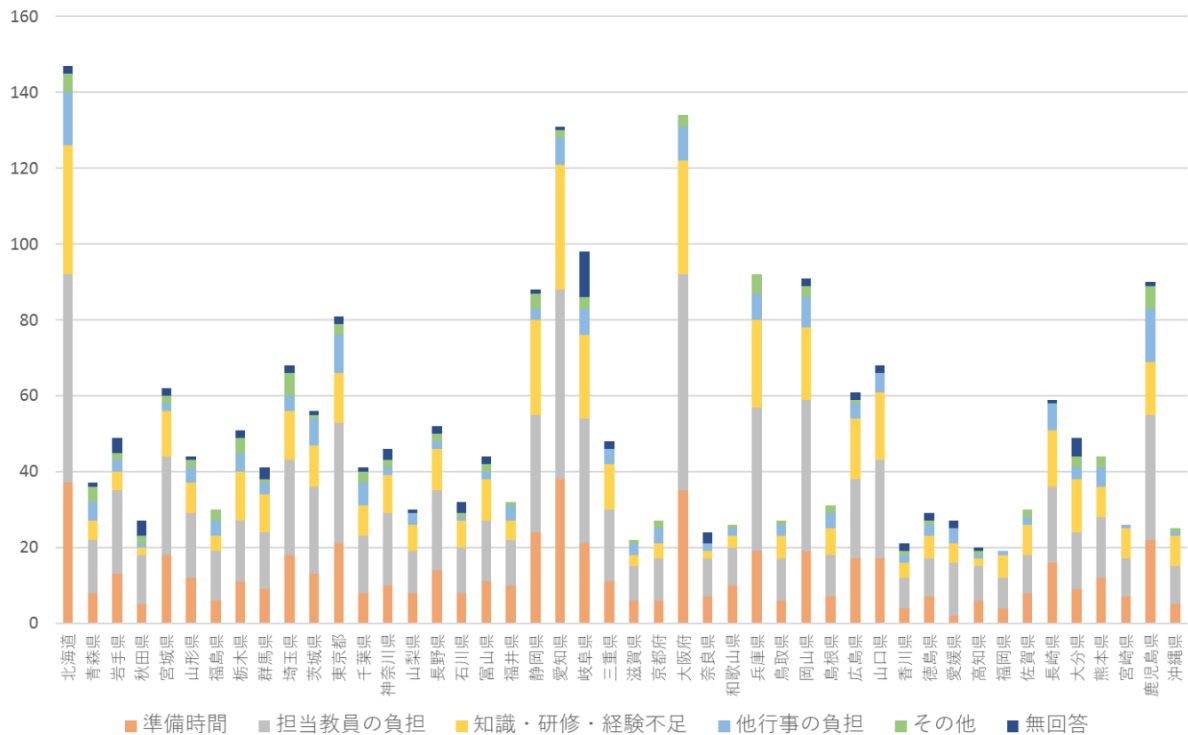


## 1 3 探究の課題 (ア) 普通高校の課題 (回答数)

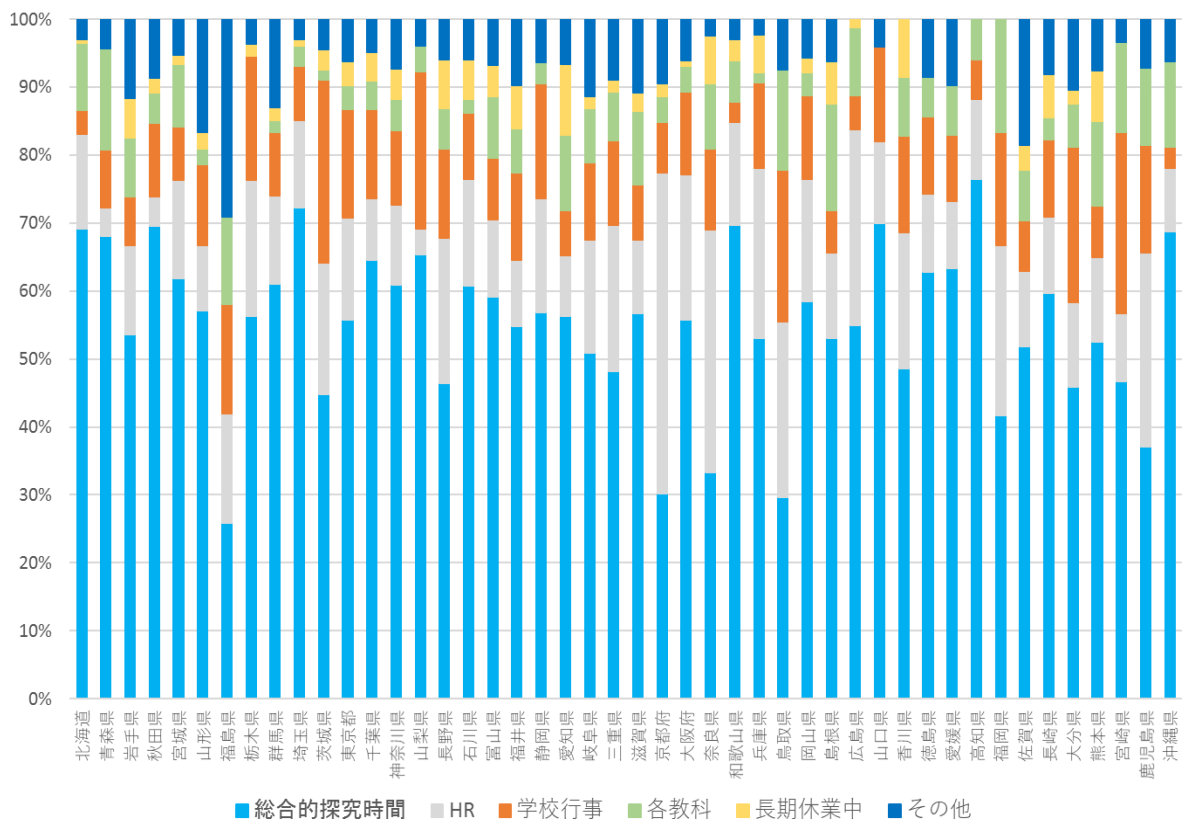
(都道府県別)



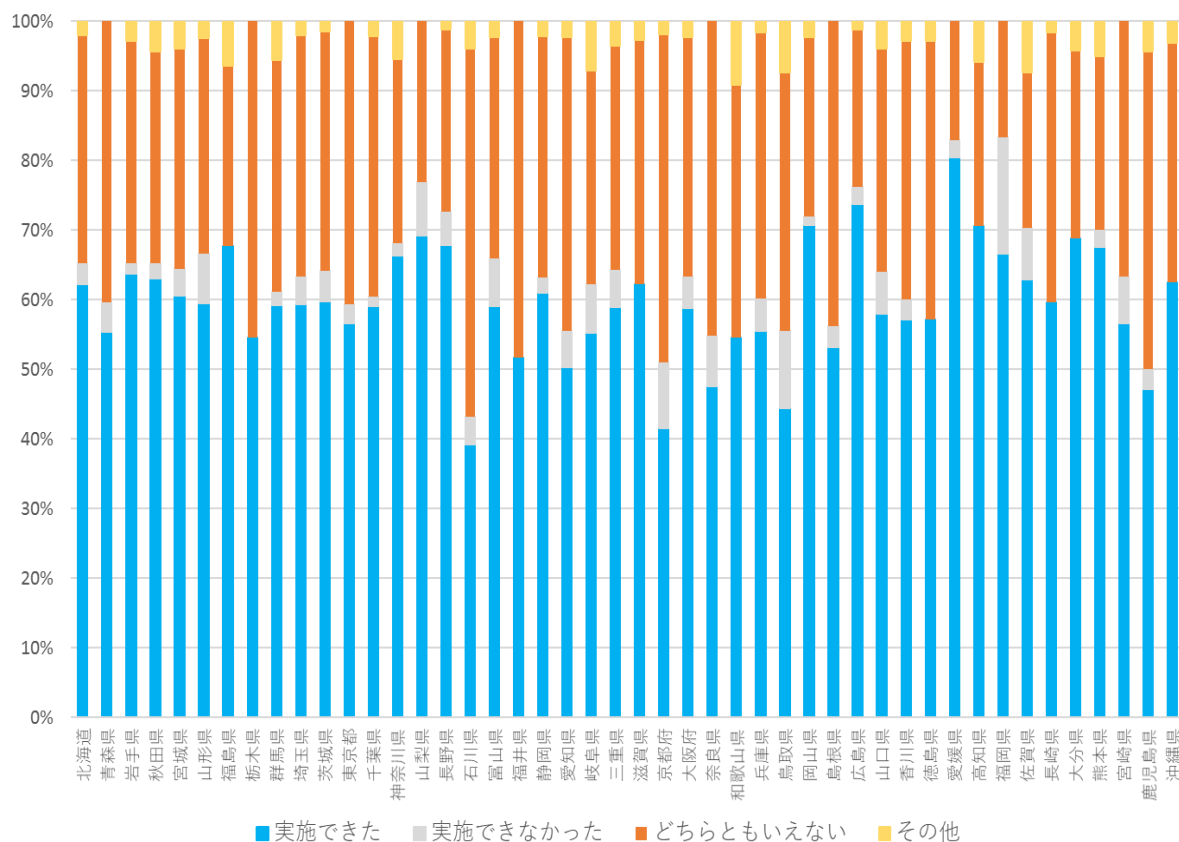
14 探究の課題 (イ) 専門学科・総合学科高等学校の課題 (回答数)  
(都道府県別)



15 キャリア教育の機会  
(都道府県別)



## 16 探究とキャリア教育との位置づけ (都道府県別)



## 17 キャリアパスポートの有効な活用例

就職応募書類、進学受験等に活用。

毎学期ごとにまとめ、3年間の振り返りに活用している。

生徒と担当者との面談を行い、将来の進路や生き方、学校生活等についての意見交換を行う。

学校行事等での振り返り、検定や資格の確認、担任との面談に利用。

高校3年間での活動や実践をもとに振り返りを行っている（手帳を活用）。

十分に活用されていない状況であり、今後活用方法等検討していきたい。

本県で作成しているキャリア教育ノートを代替で活用し、系統的なキャリア教育を行っている。

進路を考察する際、自身の振り返りとして活用している。

## 18 キャリア教育全体としてうまくいった事例（各校の取組の中で）

年次があがるにつれて、発表やプレゼンテーションの能力が向上した。

インターンシップで働くことの大変さと魅力を実感し進路について真剣に考えるきっかけとなった。

総合的な探究の時間をSDGsをテーマに、問いを立て、フィールドワークも実施し、解決策を探究する授業とした。

卒業生を中心に社会人の方に来校していただき、1年生に対して職業観や人生観を語ってもらう講座の実施。

10社を超える企業の方々から、それぞれの教室で働くことについて講義を受けること。

大学（学生）と連携して、起業家教育を実施した。

## 19 仙台二華高等学校／京都市立堀川高等学校 訪問報告

●宮城県仙台二華高等学校（令和5年7月31日訪問）



校訓：進取創造 至誠貢献

教育方針：グローバル人材の育成

教育目標：主体的・創造的に学ぶ 礼節と品性 心理と正義 国際社会

概要：創立119年目 男女共学・併設型中高一貫教育校としては14年目

令和元年度入学生から単位制

授業1コマ45分授業・週35コマ

令和2年9月 IB（国際バカロレア）認定校（東北公立高校初）

令和5年3月 IB類型一期生卒業

1年次7クラス（高入生と一貫生は別々のクラス編成）

2年次6クラス（混合 普通類型文系クラス・IB類型・普通類型理系クラス）

3年次6クラス（混合 普通類型文系クラス・IB類型・普通類型理系クラス）

令和4年度卒業生進路

国公立大学114名 私立大学71名 専各学校4名 就職1名 その他40名

学校設定教科「GS(グローバルスタディ)課題研究」

GS 課題研究Ⅰ 高1必修 北上川／東北地方の水問題の調査・研究 模擬国連

GS 課題研究Ⅱ 高2選択 メコン川／東南アジアにおける水問題の調査・研究

GS 課題研究Ⅲ 高3選択 国内外における研究成果発表・提言

国際交流

研修旅行(高2全員・シンガポールや台湾)

デラウェア派遣研修(高1・2希望者・米国デラウェア州)

校内組織体制

教務・情報部 → 教務・行事編成・情報管理

総務部 → 防災・庶務・PTA

進路指導部 → 進学指導・就職指導

生徒指導部 → 生活指導・生徒会・特別活動

研究企画・IB部 → 授業研究・企画運営・国際交流・IB

保健厚生・教育支援部 → 保健厚生・教育相談・特別支援

図書部 → 図書・視聴覚

●京都市立堀川高等学校（令和5年8月21日訪問）



校訓：立志・勉勵・自主・友愛

最高目標：「自立する18歳」の育成（←「豊かな学校」の構築）

概要：創立115年目 男女共学・普通科

授業1コマ50分授業・週33コマ（3年生31コマ）

1年次6クラス

（共通）（探究基礎Ⅰ）

2年次6クラス

（普通科人文探究コース・人間探究科／普通科理数探究コース・自然探究科）（探究基礎Ⅱ）

3年次6クラス

（普通科人文探究コース・人間探究科／普通科理数探究コース・自然探究科）（探究基礎Ⅲ）

令和4年度卒業生進路

国公立大学116名 私立大学38名 専門学校等1名 就職0名

予備校等89名 その他1名

探究基礎（総合的な探究の時間）・理数探究基礎（令和4年度～全面实施）

1年次探究基礎 → 入学直後探究DIVE・探究基礎前期HOP・探究基礎後期STEP

1年次理数探究基礎 → 前期・後期

2年次探究基礎 → 探究基礎前期JANP・後期AcademicProject

3年次 → AcademicProjectAdvanced（学校設定科目（探究基礎Ⅲの通称））

探究五箇条 → 知らないということを知れ／常識を学べ／常識を疑え／手と頭を動かす／  
朋と愉しめ

海外宿泊研修・国際交流（再開）

校内組織体制

企画推進部 → 進路指導統括・生徒募集広報

学務部 → 学事システム系・授業系・庶務系・

学校生活部 → 生徒指導・生徒会生徒会会計・部活動・奨学金・保健指導  
日本スポーツ振興センター係・衛生管理・人権教育・総合育成支援  
教育

探究部 → 探究科目系・図書館系・教科指導系・研究指定

## 20 令和5年度の調査研究の柱立て

### ① コロナ5類移行後の就職状況

今年度の求人状況等を共有し、課題を導き出す。

### ② 主体的な職業観育成への取組状況

生徒の主体的な職業選択への対応、職業観育成の在り方を検証する。

### ③ 探究的な活動を取り入れたキャリア教育の実施状況

普通科高校と専門高校、総合学科高校とのキャリア教育への課題を比較検討し、望ましい職業観、勤労観を養うための探究活動の在り方を検証する。

### ④ 学校種の連携による課題と方策

キャリアパスポートの効果的な活用を検証する

## 21 終わりに

### ●高等学校学習指導要領総則より

#### 【キャリア教育の充実（抜粋）】

生徒が、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を身に付けていくことができるよう、特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。その中で、生徒が自己の在り方生き方を考え主体的に進路を選択することができるよう、学校の教育活動全体を通じ、組織的かつ計画的な進路指導を行うこと。

#### 【解説】

キャリア教育を効果的に展開していくためには、特別活動のホームルーム活動を要としながら、総合的な探究の時間や学校行事、公民科に新設された科目「公共」をはじめとする各教科・科目における学習、個別指導としての教育相談等の機会を生かしつつ、学校の教育活動全体を通じて必要な資質・能力の育成を図っていく取組が重要になる。また、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら見通しをもったり、振り返ったりする機会を設けるなど主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めることがキャリア教育の視点からも求められる。

### ●昨年度の研究報告より

令和4年から新学習指導要領に応じたキャリア教育を進めていく中で、特に普通科高等学校は学校の特色・魅力を組織的に確認・把握し、地域社会に伝えていかなければならない。小学校から高等学校を経て大学、又は企業まで生徒自らの実績と将来の指針をつなげることが変化の激しい社会において自己理解を深める手立てとして考える必要がある。

学校は視野を広げ、地域の大学や企業等と連携を取りながら発展させることが有効である。

普通科高等学校のほとんどの学校が「総合的な探究の時間」を活用し、「ホームルーム」と連動して実施している学校も見られる学校が多い。

専門学科高等学校の場合は、「総合的な探究の時間」ではなく、「課題研究」の時間に教科の専門性を生かしたキャリア教育の実践が行われていることが伺えた

専門学科・総合学科高等学校にとって探究に係る教科と学校行事が、生徒の教育活動については重要な要素であることがアンケートから理解できた。

記述欄にて実施の内容を検討すると講演が多く、「ホームルーム」の時間を含めて計画的に実施している。